

第3次沖縄天然ガス資源調査・研究報告（その5）

—試験井の目的および位置選定について—

牧野登喜男* 福田 理**

Report of the 3rd Phase Survey for the Natural Gas Resources of Ryukyu Islands (Part 5)

—Purposes and Location of Naha No. 1 Test Well—

By

Tokio MAKINO & Osamu FUKUTA

Abstract

In this part, the purposes and location (Kokuba, Naha City) of the Naha No. 1 test well have been given.

1. 目 的

第1次調査の結果指摘されているように、沖縄本島南部地区では、地下水中の Cl^- 濃度は、一般に坑井深度150~300m で数 1,000~10,000 mg/l に達するので、深度 300~500 m の小口径の試錐を数孔うがつことによつて、可燃性天然ガス鉱床に関する各種の情報を得ることができると考えられる。今次の試錐はこの線に沿つて計画・実施されたもので、そのおもな目的は、那覇市国場付近の主要な帯水層である小祿砂岩およびその上下の地層について、次の諸点を明らかにすることにあった。

- 1) コアの有孔虫・物理・化学試験によつて、天然ガス鉱床に関連する地質学的ならびに地化学的の資料を得る。
- 2) 電気検層によつて、地層の物理性および間隙水の化学性等の概要を知るとともに、岩石層位学的単位による対比の精度の向上に必要な基礎資料を得る。

3) 以上の2項の結果に基づいて、さく井地点付近の天然ガス鉱床学的性質を明らかにする。

4) 産出試験によつて、ガス質・水質・ガス水比・産ガス能力等を明らかにする。

5) 他の試錐や地表地質等の資料と合せて、さく井地点付近の地質構造を細部にわたつて明らかにする。

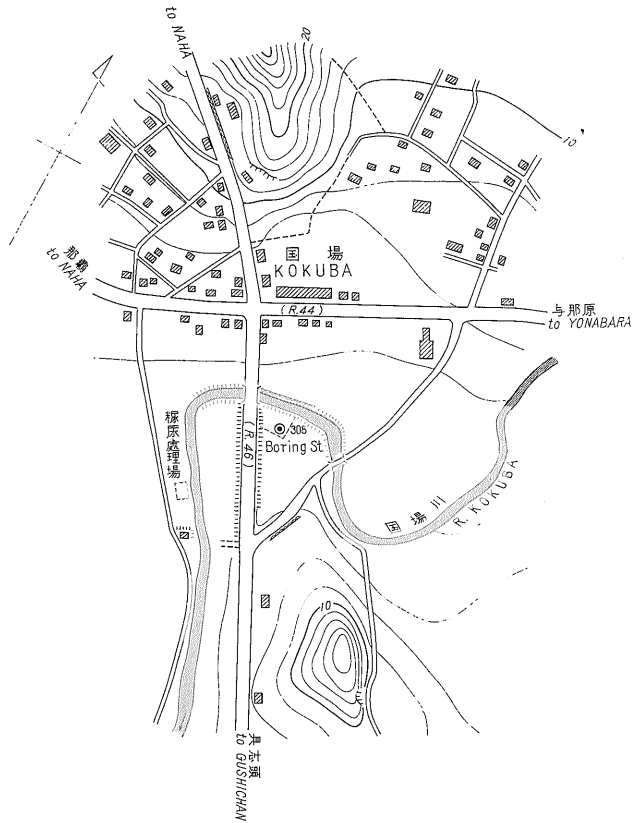
2. 位 置

以上の諸目的を達成することをまず考慮するとともに、現地における作業・調査上の便利さを併せて考慮した結果、第1図に示すように、試錐位置是那覇市国場の国場橋のもより地点に選定された。以下、説明の便宜上、本試験井を那覇1号井と呼ぶことにする。なお、試錐位置の傍を国場川が流れているが、満潮時には海水がこの付近まで逆流してくるほか、近くの川下に糞尿処理場があるため、この川の水をボーリング用には使えず、結局、琉球政府建設局のタンク車(容量 1,800 l)でボーリング用水を運んでもらうことにした。

(昭和41年9月調査)

* 元所員

** 燃料部



第 1 図 那覇 1 号井付近の実測図